

筋トレでふるさとの皆さんも健康に 本市出身者が本を寄贈

2月9日、市役所で(株)肉体改造研究所代表の竹田大介さん(本市出身)が、市内中学校に執筆した本の寄贈を行いました。竹田さんは、パーソナルトレーナーの功績が認められ、昨年6月、NSCAジャパンによる最優秀指導者賞を受賞し、都内で健康経営コンサルティングや講演活動を行なっています。竹田さんは「本を読んで成長期の子どもたちにも体をつくる基礎を学んでほしい」と語りました。



左から、合志中境敬一郎校長、竹田さん
執筆した本を恩師に手渡しました

市の農業を担う若者たちを激励 就農奨励金交付式

2月2日、市役所で新規就農者への激励を兼ねて就農奨励金交付式を行ない、市内新規就農者4人に奨励金目録を交付しました。

式では新規就農者が「奨励金は高騰している資材の購入に充て、経営の維持・発展につなげたい」「農業後継者として親の背中を見ながら学び、技術を磨いていきたい」などといった今後の抱負や決意を語りました。



私たちが市農業の担い手です

中央小・第一小の1年生 地域コミュニティとの合同交流会 昔遊びを楽しみました

2月8日、西合志中央小学校で、中央小・第一小の1年生と地域の皆さんが合同交流会を行ないました。これは野々島地区・合生地区のコミュニティ地域福祉連絡協議会のメンバーと、地区の民生委員・児童委員が、子どもたちに昔ながらの遊びを教え、学校・年齢を超えた交流を楽しむ会で、コロナ禍での中止を乗り越え3年振りに実施しました。

子どもたちは、お手玉・あやとり・紙ひこうき・

トントンパツの4つのブースを順番に回り、最後は合志奇術クラブによるマジックショーを楽しみました。野々島コミュニティ会長の中野健一さんは「子どもたちの笑顔が見れて何よりです」と話しました。子どもたちからは「昔遊びがこんなに面白いなんて思っていませんでした」「皆で紙ひこうきを飛ばしたのが楽しかったです」「大人になったら私たちが教えてあげたいです」と感想がありました。



- ①地域の人が手作りしたお手玉を投げて遊びました。
- ②好きな色の毛糸を選び、ホウキやゴムのとり方を教わりました。
- ③1人ずつ竹の棒を持ち「トントン」で床をたたき、「パツ」で手を放して、隣の人の棒をつかむ遊びです。チームの皆が倒さず棒をつかむのが難しく、何度も挑戦しました。
- ④⑤紙ひこうきの作り方を教わり、投げて遊びました。遠くまで飛ぶよう何度も折り直して飛ばしていました。
- ⑥マジックショーでは技が決まるたびに「ええ〜!?!」と歓声が上がりました。

須屋剣友会が2部門で優勝 日頃の稽古の成果を発揮

1月22日、ヴィーブル体育館で第50回県下小中学生剣道基本競演大会が開催され、須屋剣友会から出場したメンバーが、小学生中学年の部で優勝、低学年の部で優勝・3位入賞しました。基本競演は切り返し・打ち込みを行ない、気剣体一致の打ち方であるかを総合的に判定します。監督の泉史郎さん(黒石団地)は「これからも基本を大切に、稽古を頑張っていきます」と話しました。



須屋剣友会の皆さん

おはなし会「ほわ〜っと」 厚生労働大臣表彰

1月20日、市役所で、おはなし会「ほわ〜っと」へボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰の伝達式を行ないました。これは、福祉分野のボランティア活動を長年行なっている功績が特に顕著であると称えられたものです。同団体は、市内公共施設やサロンにて、幅広い世代に向けた読み聞かせや手遊びなどの活動を続けており、児童の健全育成などに貢献しています。



左から荒木市長、宮田京子代表、北原ひろ子副代表

市内最大規模 栄工業団地のどんど焼き

1月22日、栄工業団地でどんど焼きが行なわれました。これは火まつり実行委員会(上野一則代表)が主催・運営、栄工業団地が協賛したもので、毎年恒例の催しとなっています。会場にはことしも多くの近隣住民が正月飾りの門松やしめ縄を持って集まりました。約15mの高さのやぐらから勢いよく炎が舞い上がると、集まった人たちはコロナ退散、無病息災、商売繁盛を願いました。



せんざいや焼きイモが振る舞われ、会場には笑顔があふれました

はがきサイズに海への思いを込めて 海洋環境を考える図画コンクール

1月21日、宇城市の熊本海上保安部で第23回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクールの表彰式が行なわれ、熊本海上保安部長賞を受賞した、筑紫いち花さん(西合志東小3年)、池部聡真さん(西合志東小6年)が表彰されました。同コンクールには県内の小中学校から55点の応募がありました。

式のあと、受賞者と家族は巡視艇くまかせに乗船し、約1時間の三角港クルーズを楽しみました。



左から、筑紫さん(作品上)、池部さん(作品下)